

第3138回
例会本日の
プログラム米山奨学事業の設立の目的と歴史と現状
地区米山記念奨学・学友委員長 三浦信一 氏

新会員卓話 池田俊介 会員

本日は新入会員卓話として、私が経営する札幌拓殖倉庫株式会社の仕事と自己紹介についてお話しします。弊社は明治45年(1912年)7月25日設立、現在114期目を迎える小規模ながらも歴史のある会社です。所在地は札幌市中央区北8条西14丁目。かつて桑園駅が貨物駅だった時代、敷地内まで引込線が延び、貨物列車が倉庫に横付けして荷役を行っていました。従業員は7名、事業は倉庫業法上の営業倉庫と不動産賃貸業の二本柱ですが、現在は不動産賃貸が売上の約95%を占める構成です。保有資産はオフィスビル7棟、倉庫・物流センター6棟、その他4棟、貸地2件。エリアは桑園12件、白石6件、北区1件と札幌市内に集中させ、開発から管理まで自社で一貫対応できる体制を取っています。日々の小さな不具合にも素早く駆けつけ、テナント満足度の向上に努めています。

近年は「築古＝価値」と捉え直す取組みを進めています。代表例が「第1拓殖ビル」です。天井高や“倉庫っぽさ”といった個性をあえて活かすことで、輸入家具・雑貨店、デザイン事務所、広告写真家、著名デザイナーなどクリエイティブ層の集積が進みました。テナント主導のお祭り開催やオリジナルTシャツ制作など、物件への愛着が自発的なコミュニティを生み、メディア掲載の機会にもつながっています。建替え一択ではなく、必要な修繕を施しつつ良い“古さ”を魅力化するやり方が、市況変動や環境配慮の流れにも合致し始めています。

当社の節目を振り返ると、創業は雑穀商・玉葱商ら約30名による共同出資に端を発し、北海道各地の農産物を札幌で保管し小樽から本州へと送る流通拠点でした。1970年に本社を現在地に移転しました。1981年、函館本線高架化に伴い駅前の倉庫群が収用され、これを機に物流系不動産を核とする不動産賃貸業へ転換しました。営業許可返納から取壊しまでの約1年強、駅裏の倉庫を「駅裏8号倉庫」と名付けて演劇・音楽・映像の場として開放し、札幌の文化発信地となったことも当社の誇りです。旧倉庫は現在、北海道開拓の村に移築・展示されています。

自己紹介です。1979年札幌生まれの46歳。桑園小、陵北

中、札幌第一高を経て上智大学理工学部物理学科、同大学院理工学研究科で量子実験に携わりました。2004年に日本オラクルでITエンジニアとしてサポートや営業を経験。2008年に家業へ戻り、デフレ下で空室増・含み損拡大という逆風のなか、賃料や契約形態の見直し、余剰コスト削減、設備更新等に取り組みました。市況改善の追い風も受け、売上は入社時の約1.7倍、昨年は空室率0%を達成しました。2022年に代表取締役役に就任しました。事業承継では非同族株主も多い中で合意形成や株式の集約に苦心し、3～4年を要しましたが、現在は次の成長ステージに集中しています。

私生活では妻と6歳の息子の3人家族です。趣味は旅行とカメラ、とくに動画制作です。家族旅行や学校行事を撮るうち、業界団体や企業の記念ムービー、採用・工場紹介映像なども依頼いただくようになりました。近作では北海道ビルダリング協会70周年記念動画、札幌商工会議所青年部の懇親会オープニングムービーほかを制作しました。YouTubeチャンネル「SQUIRREL CAMERA」にも作品を公開しています。

100年企業の責任として、地域とともに歩む姿勢はこれからも変わりません。築古ストックの価値化や物流と親和性の高い不動産の機能強化、そしてテナントと共創するコミュニティ形成を通じて、札幌の産業と文化の土台を支える一社でありたいと考えています。150年、200年とバトンをつないでいけるよう、経営と現場の両輪で愚直に取り組んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



■本日のロータリーソング

君が代、四つのテスト

2025-2026年度

国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう